

平成 29 年 12 月 下田市教育委員会定例会 会議録

平成 29 年 12 月 25 日(月)13 時 30 分下田市教育委員会定例会を下田市立中央公民館大会議室に招集した。

出席委員は次のとおりである。

佐々木文夫 教育長
田中とし子 委 員
渡邊 亮治 委 員
西堀 政幸 委 員
天野 美香 委 員

委員以外に出席した者は次のとおりである。

土屋 佳宏 生涯学習課長
土屋 仁 学校教育課長
山梨 弘樹 学校教育課 参事
糸賀 浩 学校教育課 課長補佐兼こども育成係長
本間 奈巳 生涯学習課 社会教育係長
吉田 康敏 学校教育課 学校教育係長
原 隆史 学校教育課 主事

本会議録調製者は次のとおりである。

原 隆史 学校教育課 主事

1. 開会

13 時 30 分教育長開会を宣す。

2. 会議録署名人選出

会議録署名人に 西堀 政幸 委員を選出。

3. 11 月定例会会議録承認

事務局より資料に基づき説明、承認。

4. 教育長報告事項

12 月事業報告、1 月事業計画について、事務局より資料に基づき説明。

教育長

それでは、私より報告をさせていただきます。

まず1点目としまして、天野委員につきましては、下田市議会12月定例会において議決を得まして、12月14日に市長室にて辞令交付をさせていただきました。任期につきましては、平成33年12月13日までの4年間となります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2点目、市町駅伝の関係になります。先ほど、生涯学習課長から報告させていただきましたが、結果としては市の部27市のうち27位で最後でした。私が教育長として今回で3回目になりますが、今年が一番、応援体制等ができていたのではないかと感じました。火曜日、金曜日に行われていた練習の際、良い雰囲気の中で、子どもたちや大人との関係性、挨拶など非常に良かったと感じました。また今年は例年人数が少なかった一般の部、40歳以上の部で多くの方が参加、練習していただき、より活気がある中での練習だったと思います。また教育委員の方、学校の先生なども練習に来て応援をいただいたり、大会当日、西堀委員におかれましては同行していただき、市議会議員の方2名も現地にて応援をいただきました。来年度、バスの借上料を予算要求しておりますが、こういった周りの応援環境整備、市全体で盛り上げるということを今後も継続していければと考えております。

3点目、下田市議会12月定例会ですが、中学校再編に関する質疑等は特にありませんでした。報告ということで述べさせていただきます。

4点目としまして、来年度から実施させていただく予定のプログラミング教室に関わる生徒への説明会を開催させていただきました。後ほど、事務局から詳細について報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。

5点目になりますが、小中学校につきましては、12月22日に終業式を迎え、17日間と比較的長い冬休みに入りました。2学期において、特に大きな問題等もなく、子どもたちには、この17日間を有効に過ごしていただきたいと思っております。

私からの報告は、以上となりますが、事務局からプログラミング教室説明会の補足説明をお願いします。

学校教育課長より資料に基づき、概要説明

(プログラミング教室プレゼンテーション及びアンケート調査結果)

教育長

ただ今の補足説明につきまして、何かご意見はありますでしょうか。

田中委員

具体的にどういったことをプログラミング教室で学ぶのですか。

学校教育課長

現状、中学校の授業においては、技術の時間でフローチャートなどを使ったプログラミングの基本的な内容を学ぶのですが、今回、我々が実施しようとするものは、どちらかと言いますともっとレベルが高い内容になります。具体的には、配付資料に年間35回程度の授業を行うことを記載しておりますが、35回受けていただき、マスターしていただくことでWebデザイナーとしてアルバイトできるレベルになるという内容になります。

プログラミングで使用するコードなどを覚えていただくことにより、先ほど話したフローチャートなどを使ったものではなく、自ら思い通りに動かすことができるようにするための授業を予定しております。なぜそれを実施するのかという部分になりますが、現在、また今後もプログラマーは不足している状況であること、そういった問題から国の方でも 2020 年度の学習指導要領の中で小学校からプログラミング教育を盛り込むという流れの中で、下田市としていち早くこの教室を開講し、下田に居ながら起業したり、また人材不足を少しでもカバーできるような一助として実施したいという点が挙げられます。専門的な内容をダウンゴという素晴らしい最先端である企業から教えていただくことにより、この事業を進めていきたいという思いも持っております。

教育長 学校においては基礎的な部分を授業として行っておりますが、今回、下田市としては、どんどん先のことについても進めていくことを主眼に置き、一流の講師のもとで授業展開を図っていき、そういう意味では特化しながら、下田でなければできないものをしていきたいと考えております。

田中委員 この話はどこからか、働きかけがあったのですか。

学校教育課長 国の地域起こし交流企業人プログラムを活用し、4月から東急エージェンシーの長谷川さんが下田市シティプロモーションアドバイザーとして就任していただいております。まずは観光分野なのですが、それだけではなく、地域振興あるいは教育など幅広い分野においてご提案をいただいている中で今回のプログラミング教室がありました。年間35回の動画を使用した授業を受けていただき、この授業は映像ですので、中にはどんどん先に進む生徒も出てくる可能性もあります。そういった生徒に対しましても対応できるプログラムになっております。また資料の12、13ページにも記載しておりますが、プログラミングをただ学ぶだけでなく、学ぶ中でロジカルな思考や問題解決能力を育てることに繋がるという部分も今回の教室を実施するにあたり、期待しているところです。

田中委員 これは希望する生徒に対して、実施するものですか。

学校教育課長 そのとおりです。現在の授業日数等を考えますと、なかなか授業の中に組み込むのは、厳しいと判断しております。今回はテスト導入ということで試行させていただき、単年度で終了する予定はなく、次年度以降も今年度の反省を活かしながら改善して実施していきたいと考えております。現地講師の手配さえ確保できれば、4中学校で開催することも可能ではないかと思っております。

田中委員 教職員の負担はどうなるのですか。

学校教育課長 全く負担になりません。全て教委側で手配した現地講師等で対応をさせていただくことを想定しております。今回、集計には入れておりませんが先生からのアンケート票、

プレゼン時でも先生方からもぜひ受講してみたいという声もありました。なお、下田市議会 12 月定例会におきまして、現地講師の方の研修費用等を予算計上させていただき、承認をいただいたところでございます。また、市議会議員から非常に高い評価もいただきました。

天野委員 資料 15 ページに 2020 年から小学校において必修化がされるとなっておりますが、その内容が分かれば教えていただきたいのですがよろしいでしょうか。

教育長 総合あるいは理科の中で組み込まれていくものだと思いますが、具体的にはまだわかりません。今後学習指導要領の中で示されると思います。

天野委員 今回のプログラミング教室は、今後、受験制度も変わっていく中で、論理的に考えることや自ら問題解決能力などを育むことができるものとして、大変良い取り組みだと思います。

田中委員 教職員の皆様は今後、英語教育にしてもますます大変になりますね。

教育長 英語教育についても、授業日数の調整が非常に大変になってくると思われます。そういった中で、教育委員会としてどういったサポート、対応をしていくことが良いのかということをお細かく考え、判断をしていかなければならないとも感じております。
この他に何かご意見はいかがでしょうか。

全委員 意見なし。

教育長 それでは特に質問等ないようですので、教育長報告事項については以上とさせていただきます。

5. 議事

(1) 第 33 号 下田市立学校等再編整備審議会答申について

事務局より資料に基づき、概要説明。

教育長 それでは質問等、ございますでしょうか。

審議会の答申の中に校区を検討する。そして再編を検討するとなっております。この校区を変更するという部分について、これは少しでも大賀茂小へ通学させるために拡大するかどうか、そういったところで少し不明な部分もあります。

田中委員 この答申に書かれている校区を変更するというのは、今回の指定学校変更で地理的理

由となっている地域だけでなく、市内全域の小学校の校区を再編する中で変えていくという意味で、当時、教育委員長として、答申をいただいたと理解しております。

教育長 複式学級が発生したら、再編整備審議会を組織し検討すると書かれております。また、答申をいただいた当時、今後 10 年間は生じないとも記載していますが、既に発生をしている状況があります。いきなり再編整備審議会へ諮問することは地域等に対し、難しい部分もあります。教育委員会として、まずどんな方法でこの問題に対応していくのが良いのかという部分について、教育委員の皆様からのご意見をいただきたいということで今回、議案として提案をさせていただいております。

学校教育課参事 答申をいただいた当時、定数の問題において、今後 10 年間、複式学級になること自体全く想定していなかったのが正直なところですが、しかし、少子化が加速度的に進行していること、4月の新入生、転入生の割合も転出する子どもなどと比較し減少していること、大賀茂地区における指定学校変更の割合が多くなっていること、これはかつてほど大賀茂に住んでいる子どもが大賀茂小に通うという感覚が少なくなっていると感じておりますが、本当になぜだろうと思ってしまう部分があります。

田中委員 指定学校変更の申請についてですが、当然正式な手続きを経て、これだけの人数を許可しているということですか。

学校教育課参事 はい、その通りです。正式に添付書類を頂いて、許可を出しております。

田中委員 自分の考えの中では、小学校は地元にとりという考え方が根本にあります。しかし、保護者の方の中には児童が少ない小学校へ通学させたくないという考えの方もおられると思います。以前、南伊豆町の小学校に勤務をしていた時がありました。校舎などは新しく整備されましたが、ちょうど 10 年目で学校自体がなくなりました。過疎地域には若者が入ってこなく、人口はどんどん減っていく現状があると思います。南伊豆町の小学校で複式学級を経験したのですが、授業はとても大変でした。2つの学年のことを1人の先生で対応しなければならないのですから、実質、先生対個人というような教室になり、通常考える皆で学ぶというようなことはなかなか成り立ちません。そういった中で、町費の支援員を入れましたが、支援員では教えることができませんので、最終的には講師の方を入れて、対応をしていたと思います。複式学級の中では、集団の機能性を学ぶことは難しいことです。子どもの視点から考えますと、そういった中で学ばせることは本当に良いことなのかとも思います。

教育長 ありがとうございます。田中委員は元教職員という立場からのご意見をいただきましたが、色々な角度からご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

天野委員 少ない児童の状況で、中学に上がった際、今後、中学は一つになっていく方針ですが、

集団に慣れていないなかで、勉強以外の部分での負担を考えると相当なものになるのではないかとも思います。指定学校変更をする理由の一つにやはり学童保育がないという部分もあるのではないのでしょうか。

学校教育課長 学童保育については、対象児童が少ないので、単独で開設するという事は難しく、例えば朝日小と大賀茂小を合わせ、場所については朝日公民館あたりで実施するという事も考えることができるのではないかとも思います。

天野委員 小学校における6年間は、子どもにとって非常に大切な時期だと思っています。少人数の小学校で、中学校へ進学した時、メンタル的に大丈夫なのかということも考えていかなければならないことだと思っています。

西堀委員 やはり子どものことを考えると出来るだけ大勢の中で勉強させなければならないと思います。稲梓小はクラス替えができません。そういった環境はあまり良くないのではないかと感じております。稲梓小も31年以降、1年生が1ケタになります。しかし、地元から中学がなくなり、今度は小学校がなくなるということはちょっと引かかる部分があります。

田中委員 学校の無いところに若い人は引っ越さないと思います。そういったことを踏まえると小学校は地元に残すことが良いと思いますが、3、4人で学ぶ子どものことを考えると可哀想と思う気持ちもあります。

渡邊委員 やはり本心では大きな学校で学ばせたいという保護者が多いのではないのでしょうか。

教育長 子ども第一だが、地域のことを考えることも大切だと思っています。答申の(3)今後について、「小学校の児童については、成長発達上未分化の時代であることから、慎重に審議していきたい。特に、家族や地域とのつながりを考え丁寧に行っていききたい。」と書かれており、行きつくところはここになると思います。未分化の時代に遠くの学校まで通わせて良いものなのか、小さい子どもは地域にという考え方、一方、それよりも再編が必要であるのか非常に難しい問題だと思っています。東伊豆町の大川小は、来年度熱川小へ統合されます。何十年も前に、地域が猛反対をした経緯がありますが、現在は子どもたちのために、保護者の方から統合したいという声があがったと聞いております。

田中委員 全校で何人くらいの児童なのでしょう。

教育長 全校で約20人くらいだと思います。

田中委員 小学校に対し、保護者や地域の方々には必ず後押ししてくれます。こういった方々が今の小学校がどんな状況なのかということ、統合の話をする以前に腹を据えて話し合う

ことが必要だと思います。学校についての座談会を開催することが大切だと思います。

天野委員 複式学級になった場合、今、学習内容がますます高度化になってきている中、しっかりと学べるものなのでしょうか。

田中委員 先ほども話しましたが、どちらかというところではなく、個別指導的な授業内容になってしまうと思います。その中で学んでいく形になります。

天野委員 実際に少ない人数での授業内容も色々な人たちに見ていただくことも必要なのではないのでしょうか。

教育長 少し話がずれてしまうかもしれませんが、今、賀茂地域広域連携会議で稲取高、下田高、南伊豆分校、松崎高において、過疎になっていく中で地域が衰退していく、そういったことを何とかしようということで教育行政だけでなく、色々な人を巻き込んで魅力ある学校にしようという取り組みをしております。大賀茂小をどうしていくのか、地域の人達を巻き込んで、昔、大賀茂ではアパートを作って若い世代を地域に入れようとした経過もあるようですが、大賀茂小を支えていくこと、地域で子どもを見ていくこと、そういったことを考えていくことは大切なことだと思います。ただ単に市費の講師を雇うだけではない問題だと感じます。

田中委員 まさしくコミュニティスクールの部分だと思います。

渡邊委員 大川小についてですが、通学はどのような形になるのでしょうか。

教育長 スクールバスを購入すると聞いております。仮に大賀茂小が朝日小、下田小へとなった場合はどちらも津波浸水域で統合のハードルは高くなると思います。

学校教育課長 まずは地域との話し合いするお知らせを出し、意見を聞く機会を設けることは大切だと思います。

学校教育課参事 意見を聞くことは本当に大切だと感じております。

田中委員 子どもたちの実態を、少人数で行っている内容をまずは見てもらうこと。その後、話し合いの機会を設けるなど、学校、PTA、保護者と調整した方が良いと思います。

学校教育課長 スケジュールとしますと答申にも慎重に審議、丁寧に行っていきたいと書かれておりますが、来年度に入り、地元のご意見を伺った後、教育委員会としての方向性を定めていくという形でのよろしいのでしょうか。また現在、市でも移住定住を促進していこうという中で、組織を立ち上げて検討を始めています。大きな枠で考えますとそういった視点

も取り入れながら話していくことも重要だと思います。

教育長 一方では、学校があるから人が集まるのかというご意見もいただくこともあります。

田中委員 いずれにしましても、時間をかけて慎重に審議していく形が良いのではないかと思います。

教育長 多くのご意見をいただき、ありがとうございました。この議案につきましては、今すぐに結論を出すことはできませんので、今後も継続して審議していくという形でのよろしいでしょうか。

全委員 承認

教育長 それでは、まずは地域などとの話し合いの調整をさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いします。

6. 報告事項

学校教育課長より、以下事項について、説明。

- ・下田市立中学校再編に係る保護者・学校説明会概要について

7. その他

特になし。

8. 閉会

次回開催日を1月23日（火）13時30分～に決定。

12月定例会 12月25日（月）13時30分開会。

教育長 15時10分に閉会を宣す。

会議録署名人